

# BCT 2007

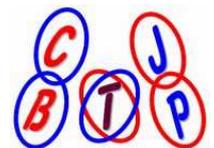
## ビジネス中国語能力検定試験要綱

[ 第一回 B C T ( 日本 ) の内容は、日本 B C T 事務局 ( セリングビジョン ( 株 ) ) が加筆しています ]

中国・国家中国語能力検定試験委員会

北京大学ビジネス中国語能力検定試験研究開発室 共著

北京大学出版社



日本語翻訳：日本 B C T 事務局 セリングビジョン株式会社

## B C T の紹介

Q . B C T とは？

A . B C T ( = Business Chinese Test ) は、母語が中国語ではない方のビジネス中国語の能力を判定する試験で、中国政府により実施されています。

また、B C T は中国語能力検定試験委員会の依頼を受け、北京大学によって研究制作されました。

Q . B C T の狙いは？

A . ビジネス活動における中国語の交渉能力を判定することが B C T の狙いです。

Q . B C T は、どのような機関によって運営・管理されているのですか？

A . 中国政府の 12 の中央官庁が共同で国家中国語能力検定試験委員会を設立しました。当該委員会が B C T を管轄し、ビジネス中国語能力証書も発行しております。委員会の傘下には国家中国語能力検定試験委員会の推進本部が設けられ、北京大学の対外中国語教育学院のビジネス中国語能力検定試験研究開発室と共同で B C T の試験事務を担当しております。なお、日本における第一回 B C T の事務局は、セリングビジョン株式会社が担当しております。

Q . B C T は定期的に行われているのですか？

A . B C T は毎年、定期的に行われており、中国及び海外で開催されます。

Q . B C T の受験対象者はどのような方ですか？

A . B C T は、母語が中国語でない方を対象としています。

Q . B C T の意味合いと用途はどのようなものですか？

A . B C T はビジネスに従事する方々の中国語のレベルの客観的な評価をご提供いたします。

その主な用途は下記の通りです。

- 1、組織における採用、選抜、昇級などの人事面での決定に際して、関係者のビジネス中国語レベルを評価する参考材料となります。
- 2、各種教育機関における学生募集、クラス分けの決定に際して、学生のビジネス中国語レベルの参考材料となります。
- 3、中国語の学習者が、自分のビジネス中国語レベルを評価し、いっそうレベルアップさせるための動機付けとなります。
- 4、各種の語学教育機関や養成機関での教育・トレーニング効果を測定する際の参考材料となります。

Q . B C T はレベル分けはどのようになっていますか？

A . ビジネス中国語能力検定試験は、以下の 5 つのレベルで表され、大まかには次の通りです。

- 1 級 中国語を用いてビジネスに従事する能力はまだ備わっていない。
- 2 級 簡単な中国語を身につけており、ビジネスにおいて限られたコミュニケーションを行うことができる。
- 3 級 中国語を効果的に身につけており、それを用いてビジネスができる。
- 4 級 優れた中国語運用能力をもち、それを用いてビジネスができる。
- 5 級 非常に優れた中国語運用能力をもち、それを用いてビジネスができる。

Q . 日本での第一回 B C T ( 2007 年 12 月 22 日 ) の試験の種類と証書はどのようになっていますか？

A . B C T ( ビジネス中国語能力検定試験 ) は、

「ヒヤリング」と「読解」

「作文」

といった二部構成となっております。

受験者には、 と の両方を受験していただきます。

「ヒヤリング」と「読解」の等級及び採点につきましては、下表の通りです。

「ヒヤリング」と「読解」の各項目の得点範囲は 0～500 点で、各等級毎に 100 点で満点です。

「ヒヤリング」と「読解」の総得点数の範囲は 0～1000 点で、各等級毎に 200 点で満点です。

表 1、ビジネス中国語能力検定試験「ヒヤリング」と「読解」の等級及び点数

等 級	ヒヤリング、読解の点数	総得点
1	0 - 100	0 - 200
2	101 - 200	201 - 400
3	201 - 300	401 - 600
4	301 - 400	601 - 800
5	401 - 500	801 - 1000

「作文」の等級及び採点については下表の通りです。「作文」の各項目の得点範囲は 0～50 点で、各等級毎には 10 点で満点です。

表 2、ビジネス中国語能力検定試験「作文」の等級及び点数

等 級	作文
1	0 - 10
2	11 - 20
3	21 - 30
4	31 - 40
5	41 - 50

ビジネス中国語能力検定試験 「ヒヤリング」と「読解」と 「作文」を受験した方には、成績証明書が交付されます。

「ヒヤリング」と「読解」の総得点は201～400点を取った方には2級の「ビジネス中国語能力証明書（ヒヤリング及び読解）」が交付されます。同様に3級、4級、5級に合格するためには、それぞれの得点が必要となります。

「作文」の総得点は11～20点であった受験生は2級の「ビジネス中国語能力証明書（書く）」が交付されます。同様に3級、4級、5級に合格するには、それぞれの得点が必要となります。尚、ビジネス中国語能力検定試験は1級を設けません。

Q . B C Tの試験成績の有効期間はどれだけですか？

A . 試験成績の有効期間は、試験日から起算して2年間です。

Q . 日本に第一回B C Tの試験事務の窓口やお問い合わせ先はどちらですか？

A . 日本B C T事務局であるセリングビジョン株式会社が担当しております。

お申し込みに関しましては、<http://www.bct-jp.com/> をご覧ください。

また、上記のURLにB C T受験申込書がございますので、その申込書に必要事項をご記入の上、セリングビジョン株式会社（F A X : 0 3 ( 5 2 5 1 ) 6 0 2 0）までF A Xでお申し込みください。

## セリングビジョン株式会社

〒105-0003 港区西新橋1 - 9 - 1プロドリー西新橋

電話： 0 3 ( 5 2 5 1 ) 3 1 0 1

F A X : 0 3 ( 5 2 5 1 ) 6 0 2 0

### [ 参考 ]

中国・国家中国語能力検定試験委員会傘下の推進本部の考試処と北京大学のビジネス中国語試験研究開発室が全世界に向けて、共同でB C Tに関する試験事務及びお問合せを担当しております。

中国・国家中国語能力検定試験委員会傘下の推進本部の考試処

電 話：86-10-8802-6478

メール：[kaoshi@hanban.edu.cn](mailto:kaoshi@hanban.edu.cn)、HP： [www.hanban.edu.cn](http://www.hanban.edu.cn)

北京大学のビジネス中国語能力検定試験研究開発室

電 話：86-10-6275-8874

メール：[service@bcthome.cn](mailto:service@bcthome.cn)、HP： [www.bcthome.cn](http://www.bcthome.cn)

## B C Tの等級

「ビジネス中国語能力検定試験の等級基準」の中には下記の四項目（等級評価基準、会話レベル、文法知識、ビジネス実務）が含まれています。（詳細については後記の諸表をご参考ください）

「等級評価基準」とは、中国語を用いてビジネスを行う能力を等級 1 から等級 5 で判定いたします。

「会話レベル」とは、中国語を用いた日常会話の能力を等級 1 から等級 5 で判定いたします。

「文法知識」とは、文法は言語能力の基礎となるため、下記の表中には「文法」、「語彙」、「文体」等が含まれています。

「ビジネス実務」とは、中国語を用いてビジネスを行う際の応用能力を判定いたします。下記の表中にはレベルの頂点を無限大に設定しています。

表中の「文法知識」と「ビジネス実務」とにしましては、上の判定レベルは下の判定レベルをカバーしております。

当検定試験は、中国語を用いて日常会話をする際の基本的な言語能力を測ることを目的としております。そのため、1 級にしましては証明書が発行されません。

表 3、ビジネス中国語能力検定試験の等級基準

	等級評価基準	会話レベル	文法知識	ビジネス実務
1 級	中国語を用いてビジネスに従事する能力はまだ備わっていない。	日常生活の中で最も基本的な応答ができると同時に、自分からも簡単な問合せができる。	最も基礎的な文法を多少使用することができる。 覚えている単語の量はまだ少なく、ビジネスでよく使われる単語が身につけていない。 中国語の聞き取りと会話にまだ慣れていない。	簡単な挨拶や感謝の言葉を言える。 簡単なお願いを伝えられる。 簡単な漢字の標識を識別することができる。
2 級	簡単な中国語を身につけており、ビジネスにおいて限られたコミュニケーションを行うことができる。	お問合せをすることができ、自分に関する紹介をすることができる。 自分の考えや希望を伝えられる。肯定的な応えと質問ができる。 自分の考えや不満を言うことができ、他人にお詫びを言うこともできる。また、他人の謝罪を聞いて、理解することができる。 相手を言葉でお招きすることができる。また、相手方からのお招きを受けたり、お断りすることができる。	初級的な文法知識がわかる。 ある程度の単語を覚えている。また、ビジネスで使われる用語を多少使用することができる。 公式の場における一般的な言い方と公式な場ではないところで使われる言い方の区別をつけることができる。また、公式の場ではないところにおける言い方を使用することができる。	道を教えてもらうことができ、他の人に道を教えられる。 普通の買物ができ、チケットや宿泊の予約ができる。 信書の受け取りや投函ができる。 簡単な伝言メモを書ける。 お客さまへの対応ができる。 求職への応募ができる。

等級評価基準		会話レベル	文法知識	ビジネス実務
級	3	<p>中国語を効果的に身につけており、それを用いてビジネスができる。</p> <p>物事の状況を説明することができる。</p> <p>物事の経過を述べることができる。</p> <p>正確に物事の比較をすることができる。</p> <p>疑問点を説明することができ、勘違いを訂正することもできる。</p> <p>多くの言い方で謝意、賛同、提案、受け入れ、お断りを述べられる。</p>	<p>中国語の文法知識を比較的よく身につけている。</p> <p>一般的な用語を覚えており、ビジネスで使われる用語をある程度使用できる。</p> <p>基本的に公式の場における一般的な言い方と公式ではない場における言い方の区別をつけられるとともに、ある程度予想した場面において、正式な言い方を使用することができる。</p>	<p>人物の描写、品物の外観及び特徴を言える。</p> <p>世間の話題について話し合える。</p> <p>電話で簡単なことを話せる。</p> <p>ビジネス文書及び電子メールを書ける。</p> <p>会議の進行次第を計画することができる。</p> <p>製品の性能及び生産過程について質問することができ、類似品の比較に関して説明ができる。</p>
	4	<p>優れた中国語運用能力を持ち、それを用いてビジネスができる。</p> <p>自分の考えを表現できる。または相手方の考えを打診できる。</p> <p>詳しく物事の事由を口頭で述べることができる。</p> <p>妥協の表現が言える。</p> <p>物事に対する評価ができる。</p>	<p>複雑な中国語文法の知識を身につけている。</p> <p>一般的な用語を覚えており、ビジネスでよく使われる用語をかなり使える。</p> <p>正式な場における一般的な言い方と正式ではない場における言い方との区別をつけられる。また、正しい言い方を使用することができる。</p>	<p>ビジネス中国語の情報を読める。</p> <p>マスコミ放送の内容及び討論の焦点を理解し、聴き取れる。</p> <p>商談の場で自分の考え方を述べられる。</p> <p>会議の内容をメモに取ることができる。</p> <p>応募者の面接を行うことができる。</p> <p>仕事に関する報告書が書ける。</p>
	5	<p>非常に優れた中国語能力をもち、それを用いてビジネスができる。</p> <p>各方面の意見を分析し、纏めることができる。</p> <p>適当な言葉で同僚、部下、上司の行動を賞賛することができ、アドバイスもできる。</p> <p>適当な言葉で相手を説得することができる。</p> <p>物事の可能性について法実に述べることができる。</p>	<p>複雑な中国語文法を非常によく身につけており、正確に使うことができる。</p> <p>一般的な用語を覚えており、ビジネスでよく使われる用語をかなり正確に使える。</p> <p>様々な文章をニュアンスを理解でき、正確に用いることもできる。</p>	<p>人間関係や微妙な問題を議論することができる。</p> <p>争点となっている問題について述べるができる。</p> <p>ビジネス文書を読み取れる。</p> <p>正式な講演を行うことができる。</p> <p>市場状況、トレンド及び結果を述べるができる。</p>

## 日本における第一回ビジネス中国語能力検定試験（BC T）の問題様式

ビジネス中国語能力検定試験の問題様式は「ヒアリング」と「読解」と「作文」から構成されています。

### 一、ビジネス中国語能力検定試験の問題様式：「ヒアリング」と「読解」

ビジネス中国語能力検定試験の問題様式には、「ヒアリング」と「読解」の2項目があり、各項目の問題数及び解答時間は下記の通りです。

表4、ビジネス中国語能力検定試験の問題様式（ヒアリングと読解）

試験項目	問題数	回答時間
ヒアリング問題	50問	40分
読解問題	50問	60分
合計	100問	100分

#### （一）ヒアリング

ヒアリングの解答用紙は、四つの部分から構成されています。問題様式、問題の数及び割合は下記の通りです。

表5、ヒアリングの問題様式、問題の数及び割合

問題様式	問題数	割合
1、三肢択一式	12問	24%
2、四肢択一式	20問	40%
3、四肢択一式	10問	20%
4、穴埋め問題	8問	16%
合計	50問	100%

第一部分（12問）は三肢択一式です。12の短文を聞いた後に、A、B、Cから適当な答えを選びます。解答用紙には問題文と回答文は印刷されておりませんので、受験者は適当な答えを選んで、答案用紙に解答を書きます。問題（録音）ごとに、7秒間の解答時間があります。

第二部分（20問）は四肢択一式です。20の会話或いはスピーチを聞いた後、A、B、C、Dから適当な答えを選びます。解答用紙には問題文と回答文を印刷してありますので、受験者は適当な答え（絵

か文字)を選んで、解答用紙に書きます。受験者はまず設問(録音)を聞きます。引き続いて会話やスピーチを聞きながら、解答を選びます。問題(録音)ごとに、10秒~15秒間の解答時間があります。

第三部分(10問)は四肢択一式です。やや長めの三つの会話やスピーチが流されます。それぞれに幾つかの問題が出ていますが、問題文及び選択肢A、B、C、Dが解答用紙に印刷してあります。受験者はまず設問(録音)を聞きます。引き続いて解答を選びます。問題(録音)ごとに、30秒~40秒間の解答時間があります。

第四部分(8問)は穴埋め問題です。問題用紙には幾つかの短い文章を印刷してあります。文章の中には穴埋め用の空所(空所のところには問題の番号が書かれております)があります。受験者は会話やスピーチを聞きながら、空所のところには問題の選択肢か文字を書きます。問題(録音)ごとに、30秒~40秒間の解答時間があります。

ヒヤリング問題は一回のみ流されます。受験者は答えを解答用紙に書きます。

ヒヤリング問題は受験者が録音問題から情報を聞き取る能力を測ることに重点を置いています。

具体的には以下の通りです。

- 1、標準語でのナチュラルスピードの会話やスピーチを聴き取れる能力。問題文はナチュラルスピード(170~260字/毎分)で読まれます。
- 2、問題の内容は、ビジネスやビジネスに関係する日常業務が範囲とされます。問題内容となっている題目や口調から会話の状況、話し手の身分、立場を推測する受験者の言語能力を測ります。
- 3、中国語を用いてビジネスに従事する場合に、正確に言葉を理解し、話し手の言いたいことを聴き取れる能力を測ります。
- 4、話の要点及びポイントを聞き取れると同時に、記録を取ることのできる能力を測ります。

## (二) 読 解

読解の回答用紙は、四つの部分から構成されています。問題様式、問題の数及び割合は下表の通りです。

表 6、読解の問題様式、問題の数及び割合

問題様式	問題数	割合
1、四肢択一式	22 問	44%
2、四肢択一式	12 問	24%
3、四肢択一式	10 問	20%
4、設問解答式	6 問	12%
合計	50 問	100%

第一部分(22問)は四肢択一式です。問題用紙に幾つかの短文があり、内容はビジネスに関するものです。題材、短文の長さ、難易度がそれぞれ異なります。

内容の例：掲示板、メモ帳、携帯メール、電子メール、ファックス、ビジネスレター、広告、告示、通知書、図表、伝票、製品説明書、新聞記事、ビジネス文書の摘要、ビジネス専用ホームページ等  
また、短文の後に、幾つかの設問があります。受験者はA、B、C、Dから適当な答えを選び、解答用紙に記入します。

読解問題は受験者の文章理解の能力を測ることに重点を置いています。

具体的な能力は下記の通りです。

- 1、文章を読んで、その中から役に立つ情報をキャッチして、設問に解答する能力を測ります。
- 2、ビジネス文書の真意を理解すると同時に、中国語文章の表現能力を測ります。
- 3、読読用の文章の要点を理解し、重要な部分をキャッチする能力を測ります。
- 4、読読用の文章のを読んだ上、物事の推測能力を測ります。
- 5、原作者の考えや意図を理解する能力を測ります。

第二部分(12問)は四肢択一式です。空欄に当てはまる適当な言葉を選ぶ問題です。問題用紙にはビジネスや社会生活に関する二つの文章が印刷されており、その文章中に空所がございます。受験者はA、B、C、Dから文章とかがわりのある最も適当な答えを選び、解答用紙にその答えを書きます。

この12問の問題は受験者の文章理解の総合的な能力を測るためのものです。文章全体を理解した上で、類義語を区分する能力や中国語の常用文法の構成を理解する能力を測ります。

第三部分(10問)は四肢択一式です。設問と選択肢A、B、C、Dが問題用紙に印刷してあります。受験者は文章を読んだ上で、設問と最も密接に関係する選択肢を選んで、解答用紙に答えを書きます。

この8問の問題は、受験者が文章から関係情報を見つけ、情報を比較する能力や文章全体を把握する能力を測ります。

第四部分(6問)の問題用紙には、六つの問題と比較的長い文章が印刷されています。受験者は文章を読んだ上で、設問に答えます。但し、解答の文字数は1～10文字です。問題文章はビジネス契約書、ビジネスに関する法律・法規・条例、ビジネスケーススタディー、会社紹介、経済界の人物紹介等に及んでおり、主に新聞、雑誌、書籍及びネットから引用されています。

第四部分では、文章から重要な情報を素早く探し出す能力を測ります。

その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、迅速に重要な情報をキャッチする能力。
- 2、最も簡潔な文字で答えが書ける能力。

## 二、ビジネス中国語能力検定試験の問題様式：「作文」

ビジネス中国語能力検定試験の問題様式は「作文」で、問題数及び解答時間は下記の通りです。

表 7、ビジネス中国語能力検定試験の問題様式（作文）

試験項目	問題数	回答時間
作文問題	2 問	40 分

### （一）作 文

作文問題にはビジネスに関係する二つの問題があります。出題形式は文章或いは図表で、受験生はその文章や図表をふまえて、作文を行います。作文は信書、短い説明文或いは評論文という形が主となります。

字数については、1 題目は 80 字～120 字とし、2 題目は 250 字以上です。

試験時間は 40 分です。

字体については、漢字（繁体字使用も可）で書きますが、漢字の一文字と句点は一枠を使用します。

作文試験は、受験生のビジネスで使われる中国語の表現能力を測るためのものです。

その具体的な能力は下記の通りです。

- 1、中国語を用いて、文書によって与えられた仕事を行う能力。
- 2、論理、論拠が明白で、流暢且つ適切に中国語を書く能力。

## ビジネス中国語能力検定試験の採点基準

「ヒアリング」と「読解」と「作文」の採点方式と基準はそれぞれ異なります。

### 一、「ヒアリング」と「読解」の採点方式及び基準について

「ヒアリング」と「読解」はそれぞれ 50 問あります。選択問題、穴埋め問題及び文字による解答問題において適切な解答は一つしかありません。得点は 0 点か 1 点で、1 問題に 1 点を配分します。

### 二、「作文」の採点方式及び基準について

下記の「作文の採点基準」に基づいて、受験生の作文は採点されます。

表9 作文試験の採点基準

等級	採点基準
1級	<p>交渉任務：完成が出来ない。</p> <p>文法・語彙：間違いが多く、意思の疎通は非常に難しい。</p> <p>論理性：論理性が非常に欠けている。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：誤字が非常に多く、句点等の使い方はほとんどできない。そのため、意思の疎通は非常に難しい。</p> <p>全体的な印象：文書の意味が分かりにくい。</p>
2級	<p>交渉任務：部分的の交渉任務ができる。</p> <p>文法・語彙：ある程度の単語量を覚えているが、適切な言葉を用いられない場合もしばしばある。簡単な会話ができるが、部分的な語句は意思の疎通に影響がある。</p> <p>論理性：論理性が欠けている。句と句のつながりが不自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：常用漢字がある程度書けるが、句点等の使い方に誤りがある。そのため、意思の疎通に時々、支障がある。</p> <p>全体的な印象：意味の分からない部分を無視して大意を推測しないと、文章を理解できない。</p>
3級	<p>交渉任務：基本的な交渉任務ができる。</p> <p>文法・語彙：多くの単語を覚えている。ビジネス用語を使う際に間違いがあるが、意思の疎通に基本的に問題ない。</p> <p>論理性：ある程度の論理性がある。句と句のつながりが基本的に自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：常用漢字を比較的正確に書けるが、難しい漢字を書く際に、誤字がある。しかし、意思の疎通にほとんど問題ない。</p> <p>初級の常用文書を書けるが、書式に多少間違いがある。</p> <p>全体的な印象：間違いがあるが、意味が分かる。</p>

4 級	<p>交渉任務：すべて完成することができる。</p> <p>文法・語彙：語順がよくできている。非常にたくさんの単語を覚えており、数多くのビジネス用語を使うことができる。複雑な語彙を用いる時に多少間違いはあるが、意思の疎通には影響がない。</p> <p>論理性：比較的に論理性がある。句と句のつながりが自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：常用漢字を比較的正確に書くことができ、句点等の使い方も正しい。多少文章には間違いはあるが、意思の疎通に問題はない。常用文書を書くことができ、書式も基本的に問題が無い。</p> <p>全体的な印象：作文者の意図がよく分かる。</p>
5 級	<p>交渉任務：すべて完成することができる。</p> <p>文法・語彙：語順がよくできしており、文書で正確に表せる。非常に多くの単語を覚えてあり、非常に多くのビジネス用語も使うことができる。たまには小さな間違いはあるが、意思の疎通に問題ない。</p> <p>論理性：文章の論理性が非常にはっきりしており、句と句のつながりもとても自然である。</p> <p>漢字の使用及び文書の書式：漢字を正確に書け、句点等の使い方も正しい。文章にたまには間違いがあるが、意思の疎通に問題ない。常用の文書が書くことができ、書式も問題が無い。</p> <p>全体的な印象：文章全体の意味がよく分かる。</p>

## 日本における第一回ビジネス中国語検定（BC T）試験の概要

日程：2007年12月22日（土曜日）

試験会場：東京 航空会館＜新橋＞

桜美林大学＜新宿＞

大阪 エール学園＜大阪・難波＞

名古屋 愛知大学

京都 京都外国語専門学校

福岡 西南学院大学

仙台 北杜学園

受験生が50名以上の場合は、各企業や各学校で開催いたします。

受験料：社会人 4000円、学生 3000円＜通常の半額程度＞